

日時 2009年3月16日(月) 15:00~17:30

場所 ボアソナードタワー25階イノベーションマネジメント研究センターセミナー室

出席者 堀内座長(人間環境学部教授・市ヶ谷環境管理責任者)、堀上委員(国際文化学部教授)、田中(勉)委員(人間環境学部教授)、松本委員(人間環境学部准教授)(オブザーバー) 浅井裕一、池田寛二、石神隆、伊東一夫、加藤豊、河田良子、清田しづか、國則守生、小暮弥生、菅間智義、鈴木新之介、下村恭民、宝田惇史、多田博之、玉木常博、永井進、西村佳代子、宮川路子、山下洋二郎、依田大樹、(事務局) 鈴木広行(環境センター課長)、榎本直子(環境センター課員)

【議題】

(1) リベラルアーツを考える ―社会的共通資本としての教育―

講師：宇沢弘文(東京大学名誉教授、学士院会員)

宇沢名誉教授より資料1-1、1-2に基づき、リベラルアーツという観点から社会的共通資本としての教育について講演。

前半部分においては、資料1-1に基づき、日本の教育制度に大きな影響を与えた人物について紹介し、1) 第二次世界大戦以後の教育制度の変遷、2) 戦争が教育制度に与えた影響、3) 日本におけるリベラルアーツのルーツについて考察した。後半部分においては、資料1-2に基づき、日本の教育制度が抱える課題及びあるべき姿について問題提起を行った。

講演内容の詳細は、資料1-1、1-2及び後日配布の講演録を参照のこと。

宇沢名誉教授の報告に対して以下の質疑応答がなされた。質問者(Q)は委員とオブザーバーであり、回答(A)は全て宇沢氏によるものである。

① 二つのジグクスについて(堀上)

Q: 先生のお話をお聞きして「リベラルアーツのポイント」は伝統を大切にすることであると理解した。そこで、先生の仰る大学をダメにする2つのジグクスについてお伺いしたい。そのひとつ、大学改革をすると官僚的になるというのはよく分かる。もうひとつの、建物が新しくなると大学が悪くなるという事の趣旨を教えてください。法政大学について考えてみると、建物が新しくなったが、女子大のような雰囲気になり、キャンパスに活気がなくなってきているように感じている。

A: アメリカの事例においては、建物を改修する際には、特定の教授が資金集めをして発言権を増し、研究重視の学者が大学から去るという現象が起きた。

② 大学のポリシーについて(山下)

Q: 自分の経験では、高校くらいまでは「建学の精神」が感じられるが、大学においては、ポリシーが感じられない。今後、大学としての方向性を見つける上で、アドバイスがあれば教えてください。

A: 教育は、リベラルアーツが一番重要であり、人としてのあり方に影響を与える。

以上